関係団体ヒアリング　環境分野（報告）

1　日　時　令和元年 7 月 25 日（木）　18：00～19：45
2　場　所　環境カウンセリング協会長崎　会議室（長崎市五島町）
3　団体名　ＮＰＯ法人ながさきエコネット
4　参加者　ＮＰＯ法人ながさきエコネット会員　7 名
　　関係所属：環境政策課、廃棄物対策課 5 名

合計 12 名

参加者の主なご意見

✿10 年前から良くなったこと・変わったこと✿

- 環境関係団体のつながりができてきた。各団体の取り組んでいることが分かってきた。
- サステナプラザながさき（長崎市地球温暖化防止活動推進センター：市民が気軽に集い、利用できる市民主体の環境活動拠点）ができた。
- レジ袋の有料化が進んだ。
- 東日本大震災によって皆が当事者意識を持つようになった。すべては結びついており、環境、エネルギー問題は自分たちが当事者意識を持って取り組まなければいけないということで、全国でそういう動きが出てきた。
- 観測史上最大の雨量となるなど、環境問題がリアルになり、他人ごとではないということをみんな感じざるを得ない状況となった。
- 物事が深刻化していると同時に、若い人たちが空き家を借りて斜面地の魅力を発信したり、子ども食堂的な取組みなど、割と若い人たちが当事者意識を持っている。それを行政が 100%フォローするのは難しく、また、必要としていないところもあると思うが、いい流れで回っていけばいいと思う。

✿10 年前から悪くなったこと・最近困っていること✿

- 環境関係団体のつながりはできてきたが、行政、教育界とのつながりができていない。
- 環境教育がどういう形でどういう効果をあげているか見えない部分が多い。
- 教育分野では小学5年生はプログラムがあるが、他の学年は難しい。
- 様々な活動をしているが、教育界で環境活動が進まない。事例をつくってもなかなか広がらない。しかし、ビジョンを共有しておくことが大事である。
- 地球温暖化問題でも慣れてくると、どれくらい真剣にできるのか心配である。
- 子どもは減っていくのに子どもの遊び場をつくってどうするのかと思う。持続可能にするためには、例えば、高齢者が高齢者施設に集って子どもたちをみるようなしくみにするとお金もかからない。子育て支援だけではなくて福祉も一緒にやっていかないと成り立たないのではないか。
  協働してお互いを補いながらやっていくとお互いが楽になる。時間があって社会貢献したい人と子どもたちをうまく結びつけるようなシステムを先を見越してつくらなければ持続しないのではないか。
- 細かくなったプラスチックゴミが魚からの循環で自分たちの口に入る状況になりつつある。

✿これからの環境分野に必要なこと✿

- 世の中が複雑になってきて、環境問題だけでなく世の中を良くしようとした時に、いろんな分野が関係していることがより明確になってきて、横の連携の重要性が増している。
- 今まで、マイナスの部分だけ規制して「・・・するのはやめましょう」という時代は簡単だったが、温暖化対策など、これからは社会をつないでいくという形で変えていかなければ環境政策は前に進まなくなってきた気がする。そういうつながりづくりを誰がやるのかという問題がある。行政だけではきっと進まないと思うので、どういう形で進めるのか考えていく必要がある。
- 先生方が対応できていないなど、人材の教育ができていない。先生方は忙しいため、総花的になるとわかりにくので、重点を絞って何かを進める方がよいのではないか。「学校ではこれは絶対しないといけない」ということを考えてもらう時代ではないか。
- 幼児から家庭教育を行う必要があるが、家庭教育が難しくなりつつあるので、保育園や支援センター、地域コミュニティなど皆で教育する必要があるのではないか。
- 自分たち（環境関係団体）の行動が大事だということが、子どもたち、大人たちにどれほど浸透しているのかわからない。教育を通して環境問題を浸透させることが大きな課題。
- 長崎市で生活するうえであらゆる分野で必要な知識（長崎市の環境問題、福祉問題など）を持っておくべきだと思うので、子どもたちに対して早い段階で学校教育や地域の中での教育を行う必要があるのではないか。
- 時間的に余裕のあるお年寄りの力をうまく協働できればいいのではないか。
- 食品ロスをどう活用するかについて、子ども食堂に活用するとなると、どうしても福祉との連携になる。食品ロスを減らすために出していただいた食品をどう活用するか、きちんとシステム化しないと厳しい。福祉との連携の必要性はあると思うし、食品を出してくれた方にもそうした使われ方をしていると明確であれば、納得される。フードバンク、こども食堂などボランティアではなかなか

難しいため、取組みが仕事にできるしくみがあればよいのではないか。

- 市民活動では若い世代につないでいくというのは共通の課題である。キーパーソンになって頑張ってくれる人に対し、取組みが仕事にできるしくみがあればよいのではないか。

✿これから 10 年間、市にして欲しいこと✿

- プラゴミ問題について、長崎市は海洋市でもあるので、思い切った先進的なことを条例等で打ち出すと注目度もあるのでいいのではないか。
- 大学生になるまで環境問題の知識がなかった。長崎市の平和学習のように子どもの頃から環境問題に取り組むとよいのではないか。
- 道路分野では落ち葉対策のために街路樹を切るなどしている。国道、市道の横の連携の中でそれを課題にして、緑を増やして掃除をみんなでするなど、横の組織が連携をとるよう力を出してもいいのではないか。
- 国は難しいと思うが、地方の都市の場合は、都市が全国のしくみを構築していくんだという熱が伝わると、長崎は環境にいろんなものが目立ってくる。他の組織とともに、的を絞った効き目のある環境行政に取り組まなければ、結果的には効果が見えないところがある。インパクトのある力を出していただきたい。
- 自転車問題が大きい。自転車で通行できるアクセスが必要であるため、土地がないなど限界をつくらず、限界を越えて考えてほしい。
- これからは経済的にも若い人たちは車を持つのはますます厳しくなると思うので、アシスト付き自転車は世の中の一つの流れとして、長崎でも考えなければならない時期にきているのではないか。
- 長崎市では自転車は思考の外におかれているが、これから交通体系の中で自転車をどう位置付けるのか考えるべきである。
- 自転車では長崎駅前をどうやって通過するのか、自転車のことを考えたつくりになっていない。また、新しい駅も自転車置き場までの通路を全く考えられていない。
- 新しく道路をつくる時は可能なところは自転車道をつくってほしい。つながらなくてもいいので、将来的な視点で改善されるものがあれば改善してほしい。
- 自動車より自転車を優先すべきである。市民、行政の意識を変える必要がある。
- 自転車を鉄道やバスに乗せることについて、ヨーロッパでは普通のことだが、日本では迷惑であるなど拒否する方向で管理してしまっている。話し合いや多様性を認め合えるような相互理解の場がないので、そういう場をつくる必要がある。
- 観光の面でも自転車を活用するとよいのではないか。
- 行政が総合事務所を分けたことは良かったがそこで終わってしまう。今後 10 年間、地域密着型の総合事務所がどう機能していくかが大事である。
- 防災の大きな柱と環境の大きな柱を束ねるしくみの 10 年先のビジョンを示して、それを協議会的な組織でまとめることが地域コミュニティのしくみづくりのきっかけになるのではないか。自分たちで緩和策、いわゆる CO2 削減の実行計画、それから適応策、温暖化したら災害が多くなるので、災害を起こさないために地域が取り組む。それから人がつながるコミュニティ、自治会に入っていないという課題も共通項であるため、自治会に入ってもらうための学びの場が一緒になって

行う一つのプログラムとしてうまく機能させる計画をつくってほしい。

- 空き家が多く、草が茂ると住んでいる人が孤立してしまう。空き家の周りの環境を考える時期ではないか。
- 引きこもりの人など、本当に必要な方には情報がいかないので、情報発信について、コンビニを活用するとよいのではないか。コンビニのトイレに掲示板があるところもあるので、連携するとよいのではないか。
- 行政側の困りごとをキャッチして得意な団体につなぐ組織又は団体があるとよいのでは。市職員は忙しく、わざわざランタナに行って相談しないと思うので、市役所内に気軽に相談できる場があるとよいのではないか。
- 良いことはいい意味で真似るので、何かモデル的にできればよいのではないか。
- 「縦割り行政」「地域の課題が解決できない」ことなどについては、今なら間に合うので、この 10 年間でしっかり取り組んでほしい。
- 役所の困りごとと自治会の困りごとをコーディネートできると前に進むのではないか。
- 地球環境危機時計がもう 10 時近いが、少なくとも 20 年後はどうなるかわからない。次期総合計画の策定にあたっては、できるだけ実現可能性が高いものを優先していくやり方をした方がいいのではないか。何かが抜けるかもしれないが、横の連携をとりながら、長崎市ができるもの、長崎らしいやり方があると思う。分かりやすくて、浸透しやすい計画を出していただきたい。今、環境の活動はどちらかというと孤立している。
- 次期総合計画の策定にあたっては、市民にもわかりやすいビジョンを示すことができればいいのではないか。
- いろんな計画を立てていく上で、連携や組織間のつながり、人的つながり、情報のつながりの必要性など、いろんな分野でヒアリングしても同じところに行きつくと思う。根本的な課題をどうするかということを取り上げてもらいたい。また、評価についても根本的なところで評価をすべきである。今の指標をみると「〇〇をつくりました。」など上のところで評価しているので、もっと根本的なレベルで評価すべきである。どういう評価をするかでどういう計画にするか決まってくるので、計画をつくる段階で評価も決めておかなければならない。ぜひそういうところを評価できる仕組みにしていただきたい。また、現在は計画の分野ごとに分かれて評価しているが、根本的な評価をしようとすると、それが本当にいいのか気になっており、分野をまたいだ評価をどういう形でできるのか検討していただきたい。